

TOKYO iCDC

Tokyo Center for Infectious Diseases Prevention and Control

Review of Tokyo iCDC Activities from October 1, 2020

東京iCDC所長ご挨拶



賀来 満夫
東京 i C D C 所長

都の感染症対策を担う新たな組織

東京iCDCは、令和2年（2020年）10月1日に創設されました。感染症に関する危機管理、調査・分析・評価、情報収集・発信など、効果的な感染症対策を一体的に担う新たな組織として、これまで東京都の感染状況とそれぞれのステージに応じて助言等を行ってきました。

また、リーフレット作成や、高齢者施設等のクラスター対策支援など取組は多岐に渡ります。

80名(※)を超える専門家のネットワーク

東京iCDCは、東京都の感染症対策におけるソーシャルネットワークの構築に、専門家が支援協力するという、これまでの地方自治体にはない新たな取組であるといえます。

積極的な情報発信（リスクコミュニケーション）

有効な感染防止対策を、より実効性のある取組とするため、都民・事業者の皆様への呼び掛けなど、様々なチャンネルを通じて、積極的な情報発信を行ってきました。

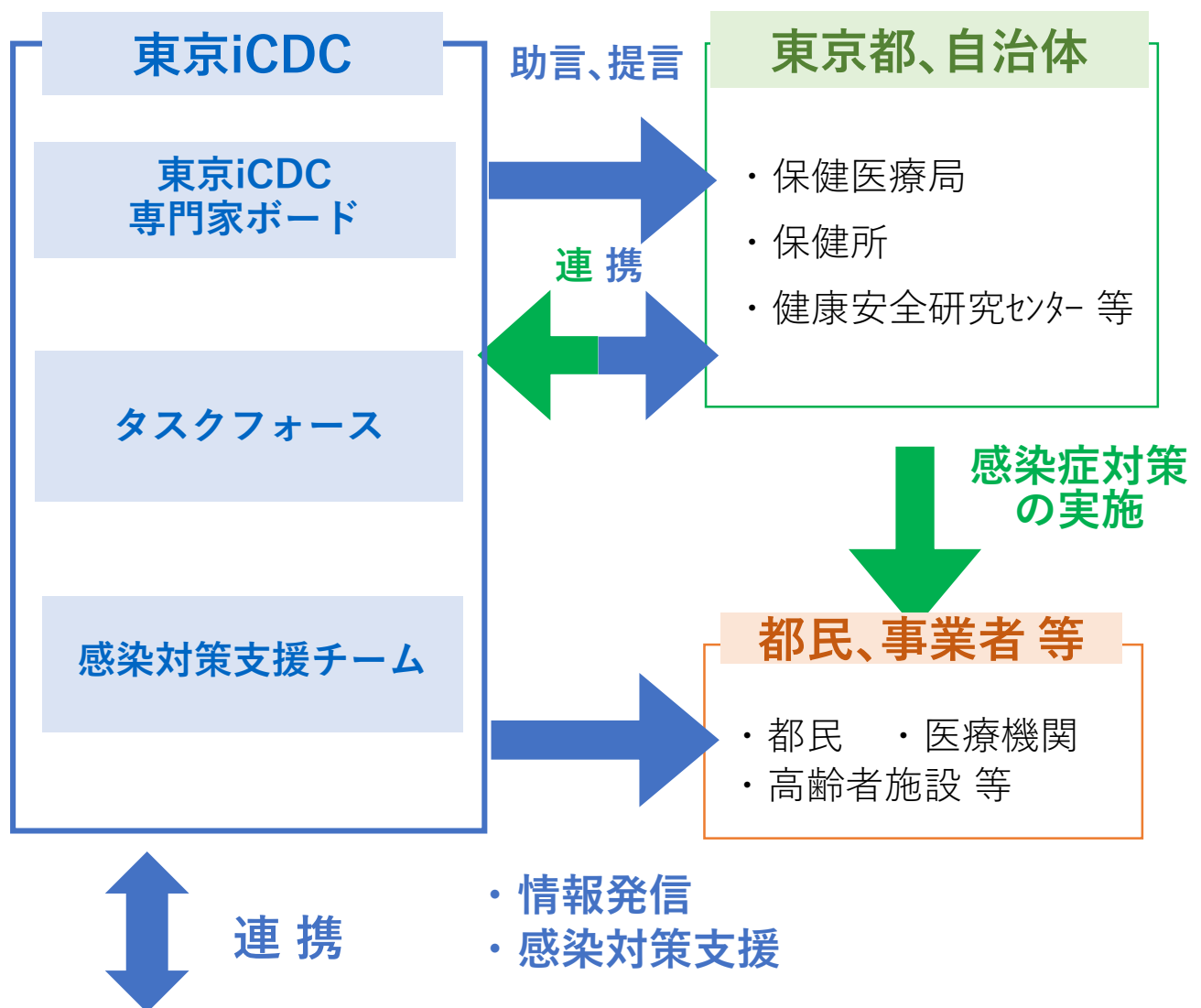
感染症は、社会全体の危機となる疾患です。社会全体でネットワークを構築し、対応することが、“最強のワクチン（「ヒューマンワクチン」）”と言えます。

東京iCDCは、専門家の観点から、東京都そして都民の皆様を支えてまいります。

東京iCDCについて

東京iCDCは、東京都に対して助言・提言のほか、感染対策の支援や情報発信等を行います。

平時から、国内外の自治体・研究機関等とのネットワーク構築によりインテリジェンス機能を強化し、危機発生時には、迅速かつ効果的に対応を図ります。



- 大学・研究機関
- 日本感染症学会
- 民間企業
- 国立感染症研究所
- 都医学総合研究所
- WHO
- 米CDC
- シンガポール国立感染症センター等
- 各国CDC
- 等

東京iCDC専門家ボードについて

効果的な感染症対策を支援する専門家のネットワーク

効果的な感染症対策を実践するためには、最新情報や科学的な知見、エキスパート・オピニオンに基づく助言や支援が必要となり、専門家の存在は欠かせません。

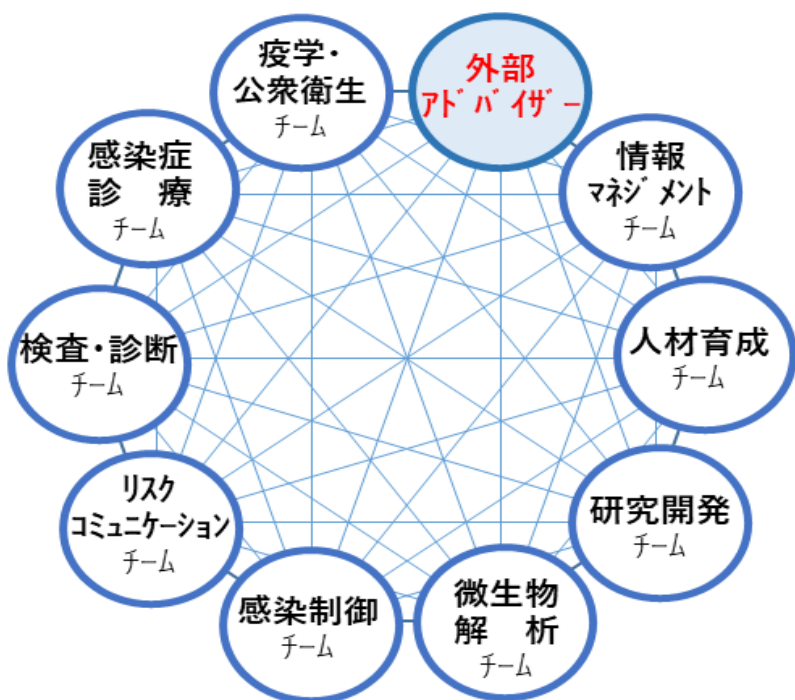
そのため、東京iCDCは、感染症に関わる様々な領域の専門家で構成する「専門家ボード」を設置しています。この専門家ボードは、相互に連携した**9つのチーム**と外部アドバイザーで構成されています。

これまでの地方自治体になかった感染症対策を支援する専門家のネットワークです。

東京iCDC専門家ボード

※ 令和5年（2023年）7月1日時点で58名の専門家が参画

※ **外部アドバイザー**は客観的な立場から助言を行う



全国各地の医療機関、大学、研究所等の日本を代表する専門家が東京iCDCに参画

タスクフォースについて

特定の課題に対応するために設置

東京iCDCには、感染症に関する特定の事項を検討する「タスクフォース」を設置しています。

令和2年（2020年）10月の立ち上げ以降、12のタスクフォース（※）を設置し、専門家ボードのメンバーや関係機関の専門家と検討を行っています。

※令和5年5月までは、主に新型コロナに関連したタスクフォースを設置。

タスクフォース



喫緊の課題には
タスクフォース
を立ち上げて機
動的に対応

～主なタスクフォース～

ゲノム解析

- ・変異株の発生動向を監視

ワクチン情報

- ・ワクチン接種の促進等

換気・室内感染対策

- ・効果的な換気対策の啓発

後遺症

- ・コロナ後遺症の実態調査、理解促進、普及啓発等

感染対策支援チームについて

施設内の感染拡大防止を支援

新型コロナの第1波では、多くの病院でクラスターが発生しました。そのため、令和2年（2020年）10月に医師及び看護師などの専門家で構成する「感染対策支援チーム」を設置しました。保健所からの派遣要請等に応じてチームを派遣(※)し、ゾーニングや個人防護具(PPE)の着脱など、感染拡大防止に関する指導を行っています。

※都健康安全研究センターの東京都実地疫学調査チーム（TEIT）と連携

感染対策支援チーム



- 初期評価
- 疫学調査
- 感染管理・拡大防止
- 施設の機能維持 等

クラスターが発生した
病院・高齢者施設等

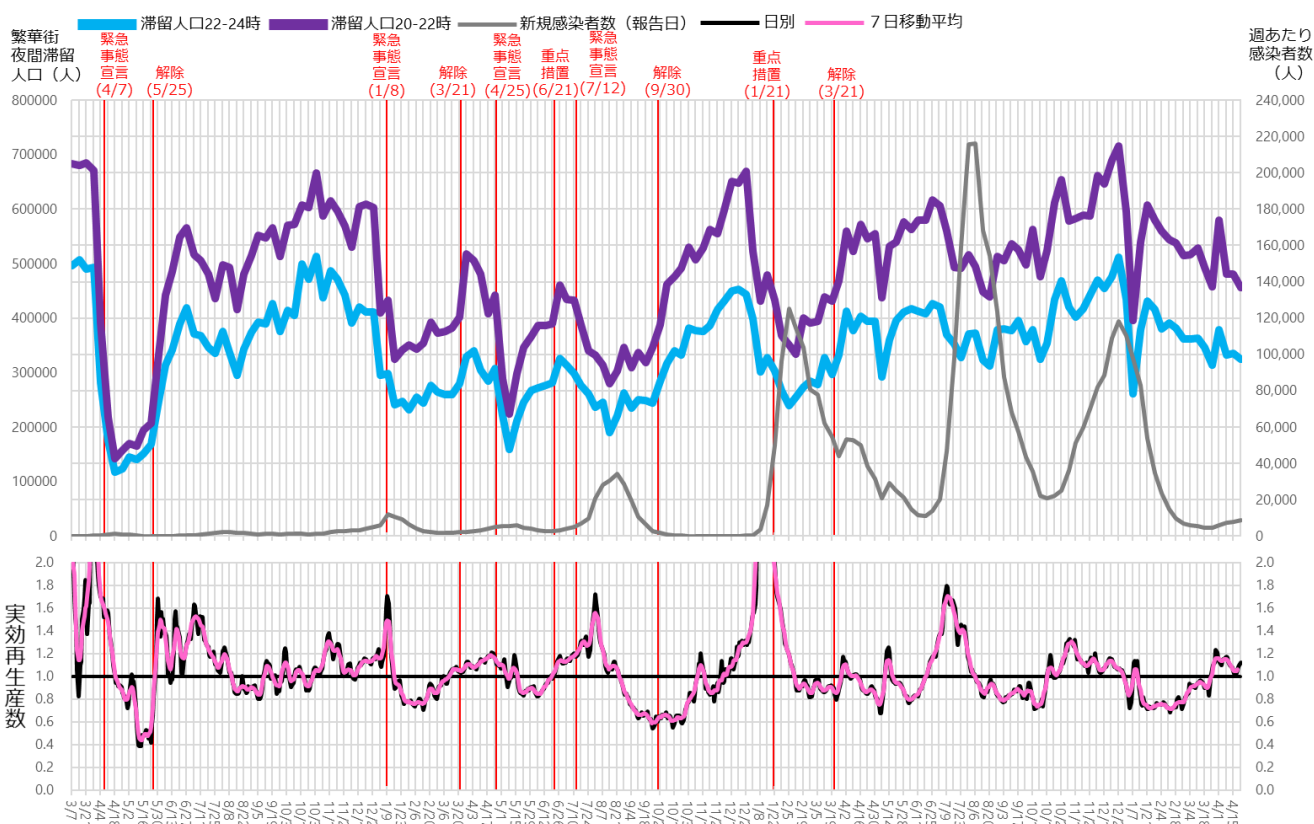
主な取組の紹介

主要繁華街滞留人口モニタリング

感染状況の予測指標として、東京都や国のコロナ施策に活用

GPSで捕捉した移動パターンから、主要繁華街にレジャー目的で滞留したデータを抽出・モニタリングし、深夜帯の繁華街夜間滞留人口と感染状況の間に相関関係があることを見いだしました。

さらに、改良を重ねた予測式に基づき、3年間取り続けたデータで長期的関連を検証した結果、改めて、夜間滞留人口と感染状況との間の相関関係を確認するとともに、より精度の高い予測が行えるようになりました。



*対象繁華街は歌舞伎町・銀座コリドー街・渋谷センター街・上野仲町通り・新宿二丁目・池袋・六本木

LocationMind xPop © LocationMind Inc.

主要繁華街夜間滞留人口の推移と実効再生産数(東京都)

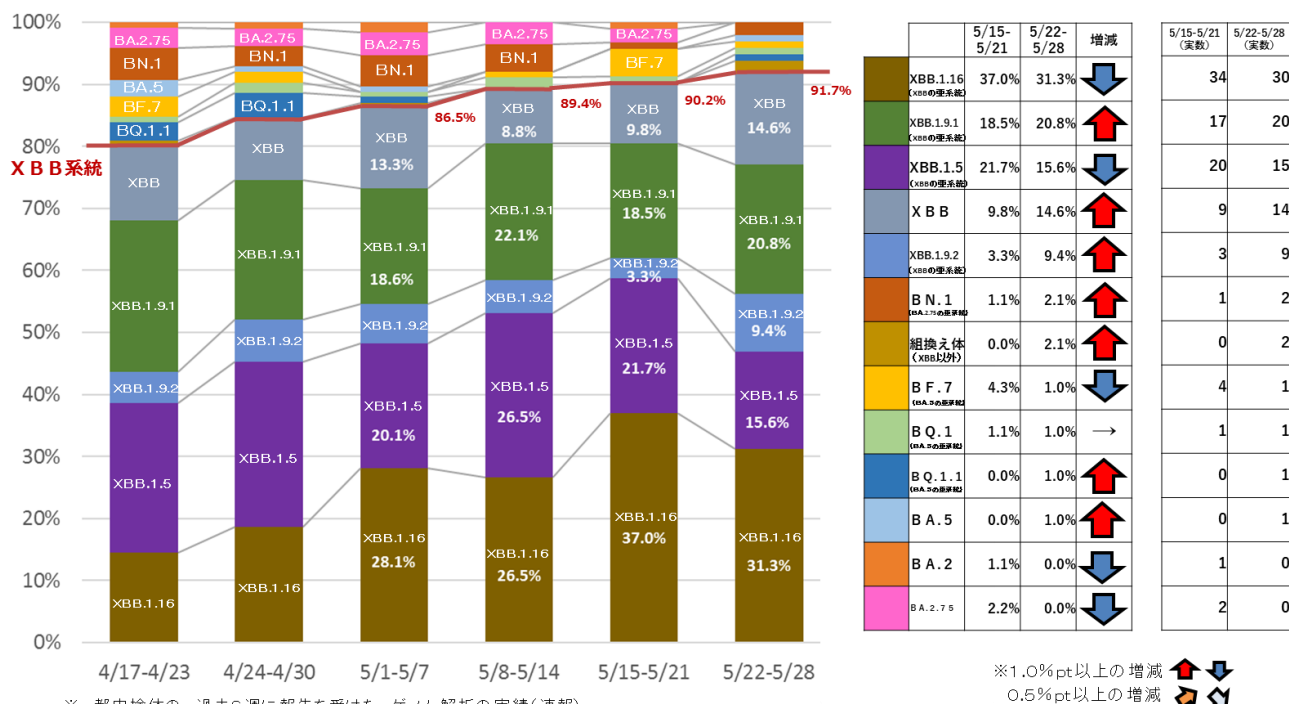
主な取組の紹介

新型コロナウイルスの変異株の監視（ゲノム解析・変異株PCR検査）

免疫逃避や重症度、感染性への影響が指摘される変異株を監視

新型コロナウイルスは、増殖や感染を繰り返す中で、少しずつ変異しています。変異は、免疫逃避や重症度、感染性などに影響する可能性があり、新たな変異株の発生は、感染拡大に繋がる恐れがあります。

そこで、変異株の発生動向を監視するため、ゲノム解析に加えて、早期に変異の有無を確認することができる変異株PCR検査を独自に実施してきました。



※1.0%pt以上の増減 ↑ ↓
0.5%pt以上の増減 ↗ ↘

- ※ 都内検体の、過去6週に報告を受けた、ゲノム解析の実績（速報）
- ※ 追加の報告により、更新する可能性あり
- ※ BA.2とBA.2.12.1とBA.2.75とBN.1は別々に計上。BA.4とBA.4.6は別々に計上。BA.5とBF.7とBQ.1とBQ.1.1は別々に計上。XBB.1.5とXBB.1.9.1とXBB.1.9.2とXBB.1.16は別々に計上（XBBは左記以外のXBB系統）。（報告時点でのPango系統による）

ゲノム解析結果の推移（週別）

新型コロナウイルス感染症モニタリング会議

東京都の新型コロナ対策を検討する会議で東京iCDCの取組を報告

東京都の新型コロナウイルス感染症モニタリング会議

（令和2年（2020年）7月～令和5年（2023年）4月まで全117回開催）において、毎週、賀来所長をはじめとする東京iCDCの専門家から、主要繁華街滞留人口モニタリングや変異株の発生動向、その他調査・研究等について報告し、エビデンスに基づいた東京都の新型コロナ対策等の施策展開をサポートしてきました。



新型コロナウイルス感染症モニタリング会議

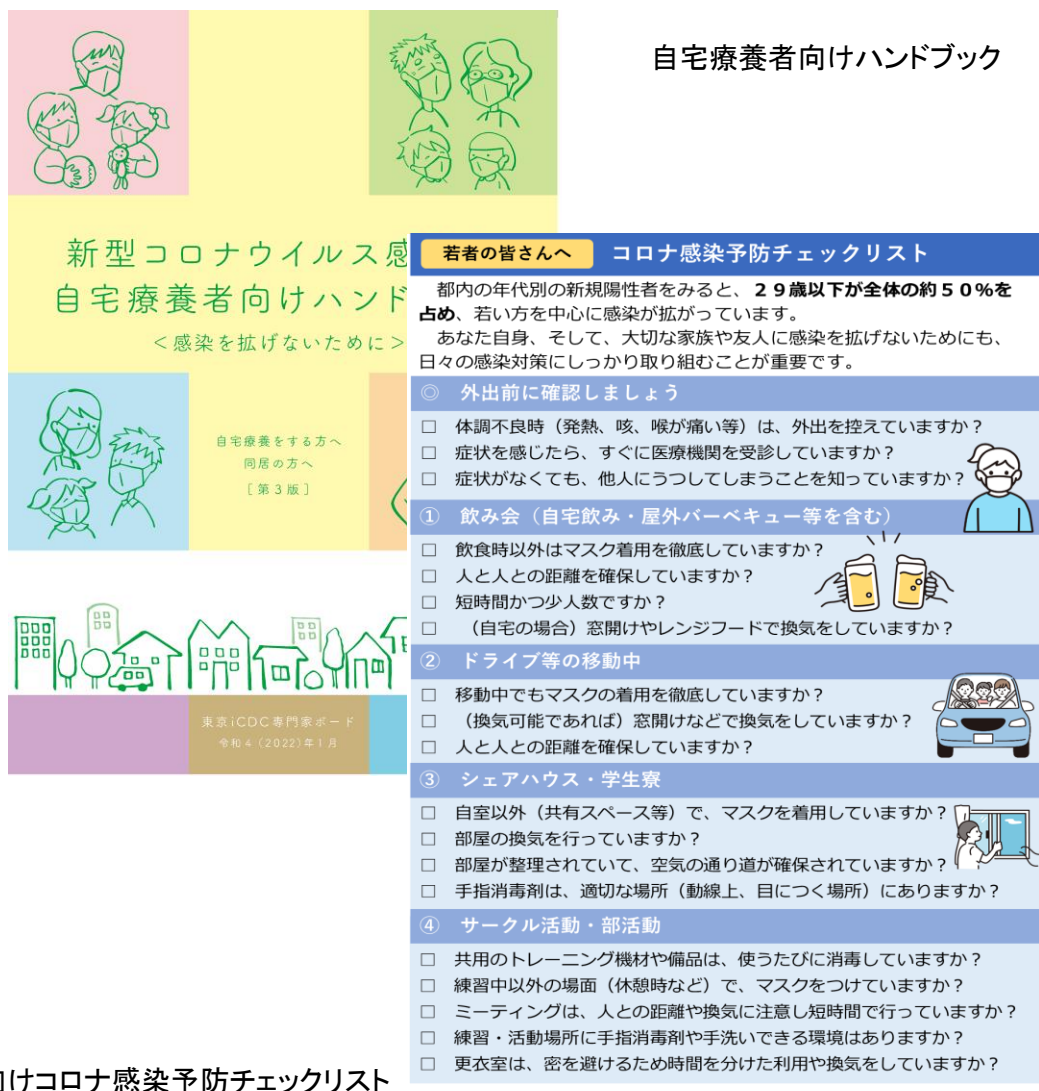
感染防止対策の普及啓発－都民への情報提供－

実践的なハンドブック・リーフレット等の作成・配布

これまで広く都民に向けた感染予防ハンドブックを作成したほか、

- 家庭内感染防止のため、新型コロナに感染した**自宅療養期間中の方及びその同居者**
- 部活や学生寮での集団感染を防ぐため、**学生やその管理監督者**
- 若い年代を中心に感染が広がっている状況では、**若者世代**

などを対象に、東京iCDCの感染制御チーム監修の感染予防に関するリーフレットやチェックリストを作成・配布するなど感染状況等に応じ、対象を絞った効果的な対策を展開してきました。



自宅療養者向けハンドブック

若者の皆さんへ コロナ感染予防チェックリスト

都内の年代別の新規陽性者を見ると、**29歳以下が全体の約50%を占め**、若い方を中心に感染が広がっています。
あなた自身、そして、大切な家族や友人に感染を広げないためにも、日々の感染対策にしっかり取り組むことが重要です。

◎ 外出前に確認しましょう

- 体調不良時（発熱、咳、喉が痛い等）は、外出を控えていますか？
- 症状を感じたら、すぐに医療機関を受診していますか？
- 症状がなくても、他人にうつしてしまうことを知っていますか？

① 飲み会（自宅飲み・屋外バーベキュー等を含む）

- 飲食時以外はマスク着用を徹底していますか？
- 人と人の距離を確保していますか？
- 短時間かつ少人数ですか？
- （自宅の場合）窓開けやレンジフードで換気をしていますか？

② ドライブ等の移動中

- 移動中でもマスクの着用を徹底していますか？
- （換気可能であれば）窓開けなどで換気をしていますか？
- 人と人の距離を確保していますか？

③ シェアハウス・学生寮

- 自室以外（共有スペース等）で、マスクを着用していますか？
- 部屋の換気を行っていますか？
- 部屋が整理されていて、空気の通り道が確保されていますか？
- 手指消毒剤は、適切な場所（動線上、目につく場所）にありますか？

④ サークル活動・部活動

- 共用のトレーニング機材や備品は、使うたびに消毒していますか？
- 練習中以外の場面（休憩時など）で、マスクをつけていますか？
- ミーティングは、人との距離や換気に注意し短時間で行っていますか？
- 練習・活動場所に手指消毒剤や手洗いできる環境はありますか？
- 更衣室は、密を避けるため時間を分けた利用や換気をしていますか？

新型コロナウイルス感染症
自宅療養者向けハンドブック
＜感染を広げないために＞

自宅療養をする方へ
同居の方へ
〔第3版〕

東京iCDC 専門家ボード
令和4（2022）年1月

感染防止対策の普及啓発－事業者等への情報提供－

高齢者施設等の感染拡大防止のため事例集等を作成

高齢者等は感染すると重症化するリスクが高いため、感染対策は重要です。特に高齢者施設等では、感染が発生するとクラスターに繋がる例が多数見られていました。

そこで、東京iCDCでは、高齢者施設等の職員に対する正しい感染対策の啓発を目的に、感染対策支援チームの支援事例を踏まえた「感染対策事例集」を作成・配布してきました。また、施設等における対応力向上を図るため、東京iCDCの専門家を講師に、施設職員向けのオンライン研修会を開催いたしました。

さらに、基本的な感染対策において重要な「換気」に着目し、高齢者施設等における換気のチェックリストの作成・配布なども行っています。



高齢者施設・障害者施設の感染対策事例集

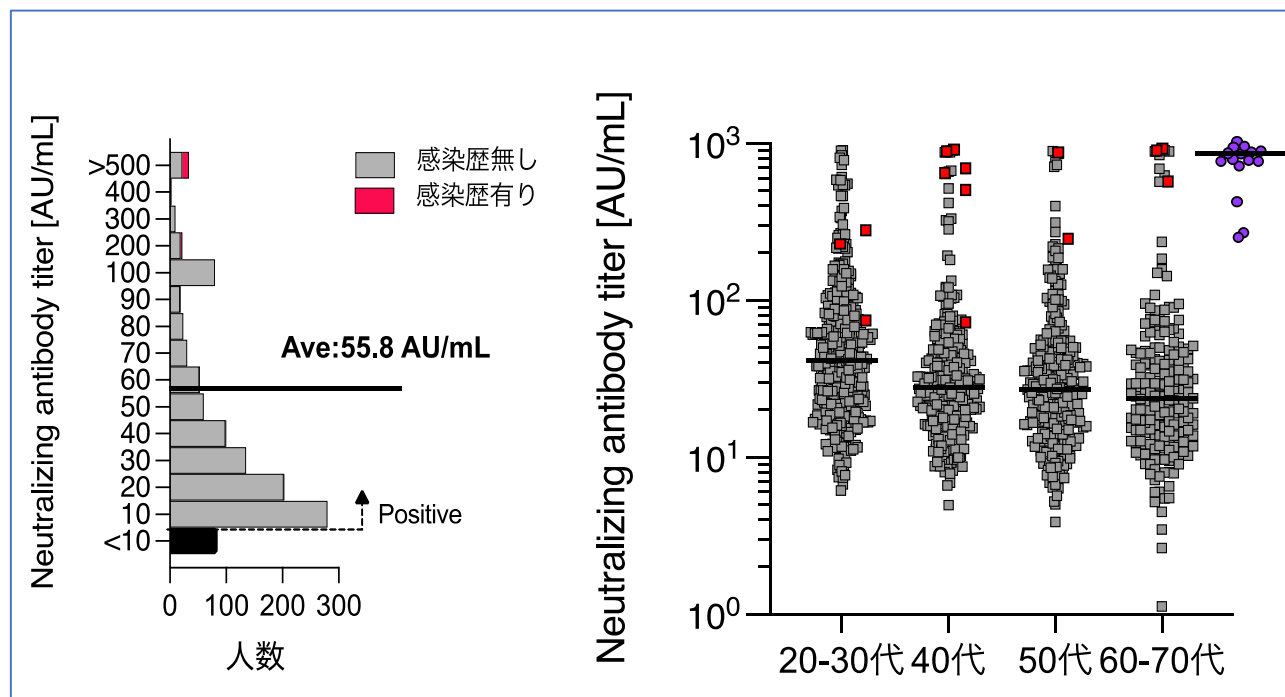
主な取組の紹介

ワクチン接種後の抗体価測定 – 新型コロナウイルスワクチン –

抗体価を継続的に測定し、ワクチンの普及啓発や接種促進に活用

都内の医療関係者を対象に、新型コロナウイルスワクチン接種後の抗体応答の推移についての分析を継続的に行ってきました（東京都医学総合研究所において実施）。

特に、「ワクチン2回目接種から7か月程度経過した方の抗体価を測定すると、**全ての年代で低下し、年齢が高くなるに伴って低い値となった**」という結果を踏まえて、東京都は、国に対して高齢者の早期追加接種(3回目)を要望・実現するなど、施策に活用されています。



新型コロナウイルスワクチン2回目接種7ヶ月後の抗体価

新型コロナ後遺症対策

後遺症について、本人や周囲の方の気づきや理解、相談や医療機関受診につなげるための取組を実施

新型コロナウイルス感染症から回復した後にも、罹患後症状（いわゆる「後遺症」）として様々な症状が見られる場合があります。一方で、後遺症は、社会的に十分認知されていない状況にあります。東京iCDCでは、後遺症タスクフォースを設置し、新型コロナ後遺症の実態を周知するためのリーフレット作成のほか、都立病院等を受診した患者の症例分析などを行ってきました。

また、医療従事者等を対象に、後遺症の実態や治療方法等の最新の知見や情報を提供するオンラインセミナー(iCDC専門家や後遺症治療に当たっている医師等が講師)を開催しています。

さらに、後遺症に対応している医療機関をインターネット上で検索し受診できるよう「後遺症対応医療機関マップ」を作成するなど様々な取組を行っています。

新型コロナウイルスの後遺症について

Point 後遺症は、コロナに罹患した全ての方に起こる可能性があります

Point 後遺症がなと思ったら、無理な活動は避け、かかつけの医療機関等に相談を

Point 症状は時間の経過とともに改善する傾向があり、治療が有効なケースも

都立病院の相談窓口には、年齢や性別、基礎疾患の有無、コロナ発症時の重症度に関わらず、様々な方から相談が寄せられています。

都内の後遺症対応医療機関をHPへ掲載しているほか、都立病院に相談窓口を設けています。(詳細は調査参照)

治療に関する様々な研究や治療が、世界中で進められています。いままる治療でも症状が改善できることもあります。

後遺症リーフレット
一般の方向け(左) 企業向け(右)

**7つでも当てはまる 場合、それは
新型コロナの後遺症
かもしれません。**

新型コロナに感染後、職場で以下のような状況になっている方はいませんか?

- ☐ 常に体がだるいなどの症状を訴えるようになった
- ☐ 少し体を動かしただけで疲れやすくなった
- ☐ 朝起きられず、通勤に時間がかかるようになった
- ☐ 仕事でのミスが多くなった
- ☐ 予定を忘れるなど、物忘れが激しくなった

● 後遺症は年齢や性別、基礎疾患の有無などに
よりますが、新型コロナに感染した全ての方に
起こる可能性があります。中には症状が悪くなるこ
とや長期化継続する場合があります。

● 症状は時間の経過とともに改善する傾向があり
ますが、無理をすると悪化することもあり、後遺
症に気づいた状況に応じて適切な処置してい
てください。

新型コロナ? 職場での支援の道 中画へ →

相談窓口 表面へ →

主な取組の紹介

都民アンケート調査の実施 ーリスクコミュニケーションー

都民の意識やくらしを理解するため、アンケート調査を実施し、都の情報発信や体制整備に活用

都民の皆様の意識やくらしを理解し、効果的な情報発信や新型コロナウイルス対策に繋げていくため、「都民1万人アンケート調査」を実施しています。

調査項目は、新型コロナウイルスに対する意識や感染対策の取組状況についてなどで、結果は東京都の施策や情報発信に活用されています。また、1万人を対象とした量的調査のほか、グループインタビューで「コロナの影響」等を深掘りするなど質的調査も実施しています。

調査時期	有効回答数	トピック
2020年 10月15日～17日	935	・新型コロナウイルス対策の取組状況 ・モニタリング分析の知名度 ・新型コロナウイルスに関して抱えている問題や不安 等
2021年 2月10日～13日	5,410	・宣言現期間中の対策の取組状況 ・都の対策に対する意識 ・宣言解除前と解除後の行動について 等
2021年 2月26日～3月3日	10,000	・マスクやテレワークできないのはなぜ ・受診しないのはなぜ ・新型コロナウイルスのワクチン。接種する？知ってる？ 等
2021年 7月16日～17日	1,000	・ワクチン接種意向 ・ワクチン接種に関する考え方 ・感染対策の取組状況 等
2021年 10月21日～22日	1,000	・感染防止対策を続けていますか ・この先のこと、どう思う？ ・進んだワクチン接種。やっぱりためらうのはなぜ？ 等
2022年 3月15日～25日	10,000	・流行から2年。現在の感染対策は ・コロナに対する意識は ・通常医療への影響やワクチン4回目について 等
2022年 10月1日～3日	1,000	・流行から3年近く。都民の感染防止対策の現在とこれから ・季節性インフルとの同時流行が懸念される冬に備えて 等
2023年 2月15日～21日	10,429	・マスク着用のマイルール ・医療従事者のためにできること ・コロナへの気持ちの変化 ・新型コロナウイルスと後遺症 等
2023年 3月8日～11日	35名 ※6グループ	・コロナの影響(ポジティブ、ネガティブ) ・コロナの収束、共生 ・今後行政に発信して欲しい情報、取り組んで欲しいこと 等

※アンケート結果は、東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議
で報告するほか、東京iCDCの「note」でより詳しい分析を行っています→



人材育成

都内における感染症対策を担う人材の育成

都内における感染症対策を担う人材の育成にも取り組んでいます。新型コロナの感染拡大に備え、予め医療機関や医師・看護師等の人材情報を登録してもらう「東京都医療人材登録データベース」の登録者を対象にした研修を実施するほか、東京都職員向けに、リスクコミュニケーションやSNS広報をテーマとしたセミナーなどを実施しています。

また、人材育成に関する支援として「東京都感染症医療支援ドクター事業※」を行っています。

東京都感染症医療支援ドクター事業

※新興感染症や一類感染症の発生時において、臨床・公衆衛生分野で組織をけん引し、都の感染症対策をリードして、最前線で活躍する医師を育成することを目的とした事業

コース概要

- 東京都では、感染症医療・疫学の専門家を目指す医師を、「東京都感染症医療支援ドクター」として採用します。
- 3つのコース「感染症専門医コース」「感染症疫学専門家コース」「感染症コアリーダー養成集中コース」を設定しており、新興感染症や一類感染症の発生時において、それぞれの分野で組織を牽引し、都の感染症対策をリードして最前線で活躍する医師を育成します。
 - 「感染症専門医コース」「感染症疫学専門家コース」は、3年間の専門研修で経験を積んだ後、2年間の都立病院・都内行政機関等での支援勤務に当たる5年間のプログラムです。
 - 「感染症コアリーダー養成集中コース」は、3年間のプログラムです。

感染症専門医コース (P.3)	1年目～2年目 専門研修 基幹施設 (東京医科歯科大学病院等)	3年目 専門研修 他施設	4年目～5年目 支援勤務 都立病院
感染症疫学専門家 コース (P.4)	1年目 専門研修 保健所等	2年目～3年目 FETP-Jコース 国立感染症研究所	4年目～5年目 支援勤務 保健所・都庁本庁
感染症コアリーダー 養成集中コース (P.5)	1年目 専門研修 都立駒込病院	2年目～3年目 ローテイト 他の都立病院等	本人の希望等に応じて 5年まで延長可

※ 希望により、海外研修有

より詳細な取組については、下記HPより御覧いただけます。



作成：東京都保健医療局感染症対策部調査・分析課
(東京iCDC事務局)

令和5年(2023年)10月 第2版